



▲『二・七の市』で焼かれていたイワシ。香ばしいにおいを感じられることも市の醍醐味だ

「新鮮」「おいしい」は当たり前  
「なつかしくて」「うれしい」

**市** 場を歩くと、商品の幅広さに驚きます。朝採りの新鮮な野菜はもちろん、干物やちりめんなど海産物、季節の果物など、改



▲かつて、郷土の偉人・渡辺崋山も口にしたといわれる串あさり

めて渥美半島で採れる「幸」の豊富さを実感できることでしょう。

『二・七の市』で50年以上もみたらしだんごと売っている永田さん(田原町)は言います。「串に刺したあさりの干物など、ほかでは手に入らないものを売っている人もいます。市を巡るといろいろな発見がありますよ」そうした珍しい食材のほかにも、お墓参りにそのまま使える仏花など、ちょっとした気の利いた商品が目立ちます。これが、「気持ちを買う」ということなのでしょう。



## 『市』のある風景



▲『二・七の市』の世話人も務めている永田さん(右)

**近**年、『二・七の市』は松下公共駐車場で開かれていましたが、中心市街地の公共駐車場のあり方が再検討される中で、今年10月から、セントファールへの移転が決定しました。

「移転しても、昔のように盛り上げていきたい。今度は分かりやすい場所になるので、通りがかりに寄ってもらえたらうれしい」と、永田さん。「市には温もりとふれあいがある。ぜひ足を運んで、この人から買いたい」と思えるようなお店を見つけてほしい」